

「メタルフリーって何？」

みなさまは「メタルフリー」という言葉を聞いたことがありますか？

これは、歯科の用語の一つで、**金属を使わない治療(歯)**のことを言います。

歯冠色材料と呼ばれる見た目に美しいもので、ポーセレン(セラミック)、コンポジットレジン、ジルコニアなどの種類があります。

この流れの背景には、さまざまな要因が絡んでいますが、一番は、**審美性(見た目)のよさ**にあります。歯と同じような色調で修復することで、きれいな口もとを得ることができます。また「**金属アレルギー**」の患者さんは口の中から**金属を除去**することで、**治ったりすることもあります**。また近年の歯科用金属の高騰で、金属で修復するよりも治療費が安くできることもあり関係しています。さらに、金属色が見えて審美性が悪いため、前歯などの見えるところには使いにくい点もありニーズがどんどん高まってきています。

ここまで書くと金属は悪者にしか見えませんが、そんなことはありません。

歯と、金属は一見すると似ているところがないように思えますが、実は硬さが似ています。特に臼歯部と呼ばれる奥歯では、噛み合わせが重要になってきます。その**噛み合わせには金属の硬さと、耐久性が必要**です。それは長く安定した状態をたもつ上で重要なことです。

また一概に金属といっても、種類は豊富で、インプラントに使用される材料は、比較的**金属アレルギーが出にくいチタン製**であったり、入れ歯に使用するコバルト、ニッケルといった金属は非常に硬く強度に優れているため、薄く作ることができます。

また歯科では金属で修復する場合、**鋳造**という方法が一般的ですが、この技術の精度はかなり高く、適合がいいものをつくることができます。逆に歯冠色材料と呼ばれるものは見た目はきれいですが、破損したり、変色したりすることもあります。また強度を保つために金属で修復するよりも歯をたくさん削る必要があります。

このように、**歯を治療するとき大切なことは、見た目の追求だけでなく、いかに長期にわたって口の中で安定した状態を維持できるか**ということです。

歯科治療の材料は他にも多種多様で長所短所があり、材料も**適材適所**が望ましいと思います。

「メタルフリー」とは、現在のニーズにあったもので、材料の開発や改善もすすみ、審美性も高く強度も強くなってきました。この流れは続いていくと思いますが、また金属が見直される時代がくるかもしれません。